

第43回 独立行政法人都市再生機構 契約監視委員会  
審議概要

開催日	令和2年2月25日（火）～3月3日（火）
開催場所	持ち回り開催
出席委員	長沢 美智子（弁護士（東京丸の内法律事務所）） 高木 勇三（公認会計士（監査法人五大）） 長村 彌角（公認会計士（有限責任監査法人トーマツ）） 鈴木 豊（学校法人青山学院常任監事・青山学院大学名誉教授） 飛松 純一（弁護士（飛松法律事務所）） 水上 貴央（弁護士（Socio Forward株式会社）） 吉田 滋（都市再生機構監事） 上澤 秀仁（都市再生機構監事）
審議事項等	審議事項 （1）令和元年度第3四半期における競争性のない随意契約及び1者 応札・1者応募となった契約について （2）「令和元年度調達等合理化計画」に係る自己評価について（令和 元年度第3四半期まで＜暫定版＞）
審議概要等	別紙のとおり なお、意見・質問欄には各委員からの発言要旨を記載しており、委員会としての 意見等を記載しているものではない。

(別紙)

意見・質問	説明・回答
審議事項1 令和元年度第3四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約について	
<p>○1者応札・応募の削減に向けてこれまで取組んできたところではあるが、解消の余地がないものが多くなってきたように思う。地域によってはそこしか事業者がいないこともあるのではないか。</p> <p>○前回1者応札35件のうち複数応札へ改善したものは、落札率も改善しているのか。</p> <p>○機構支援業務（工事監督業務等）は33件中32件が1者応札とのことだが、前回も同じ状況なのか。</p>	<p>・令和元年度第3四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約実績について、前年同期に比しての契約実績額及び1者応札・1者応募の件数の変動要因となっている複数年契約の状況等について説明。</p> <p>・令和元年度第3四半期の契約のうち、前回1者応札であった契約がどれくらい複数者応札に改善したのか又は改善しなかったのかを説明。</p> <p>・落札率も83.0%から77.1%へ改善している。</p> <p>・前はここまで1者応札は多くなかった。今回競争性を高めるために地域や職種毎に分割して発注を実施したが、技術者不足から体制構築のための人員確保が困難な状況であったことや、業務の履行開始時期が年度途中の時期でもある10月1日からとなったことにより更に人員確保が困難となったことが1者応札が増加した要因だと思われる。次回は履行開始時期が4月1日からとなるので、改善を期待している。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>審議事項2 「令和元年度調達等合理化計画」に係る自己評価について（令和元年度第3四半期まで〈暫定版〉）</p>	
<p>○四半期毎に開催している工事落札率検証会議において、不正兆候がないかどのように確認したのか記載するように。</p> <p>○自己評価が全てB評価ということだが、A評価に向けてチャレンジしたが結果としてB評価となったというような記載をしてもいいと思う。例えば発注者綱紀保持に関するeラーニングは、「正答率が低かった設問の正答率が75%を上回るように〇〇の取組を行った結果、目標を達成した」といったような記載ができないか。</p> <p>○発注の効率化に係る取組について、B評価とした根拠は。</p> <p>○発注事務手続に要する時間が1割程度削減というのは、具体的に〇〇時間から△△時間に減少したということか。</p> <p>○発注件数が12件から34件に増えれば、事業者の事務負担は軽減されない</p>	<p>・「令和元年度調達等合理化計画」について、令和元年度第3四半期までの実績に基づく暫定的な自己評価案について説明。</p> <p>・記載する。</p> <p>・正答率が低かった設問について、研修において重点的に説明をしているのでその旨記載する。</p> <p>・数値目標を定めておらず、計画に定めた発注の効率化に係る取組を実施し、事業者、発注者双方の事務負担が軽減されたことから、計画における所期の目標を達成していると判断しB評価としている。</p> <p>・前回12業務12件で発注した際に、発注手続に要した時間が350時間程度。今回競争性を高めるために地域や職種毎に分割して発注したことにより、34業務に増加したが8件に集約審査することで発注手続に要する時間は320時間程度となり、前回発注との比較で全体として1割程度削減されている。</p> <p>・34件の業務を8件に集約審査することで申請書類のうち8件分の提出で済</p>

意見・質問	説明・回答
<p>のではないか。</p> <p>○発注事務手続に要する時間が増えた部分と減った部分が出ているとのことだが、増えた部分は今後どのように改善していくのか。</p> <p>○契約手続ミス等不祥事のところ、今年度不祥事は発生していないということか。</p> <p>○数値目標が少なかったためB評価が多いのは仕方ないと思われる。次年度は数値目標を増やす等年度計画の作り方を工夫したほうがよい。</p> <p>○発注の効率化に係る取組の部分、平均応札者数、平均落札率、3割程度削減のところの根拠数字は記載するのか。</p> <p>○談合情報等対応マニュアルに基づく対応について、公正取引委員会や警察庁に再度通報を行った後、連絡はきていないのか。</p> <p>○一括審査案件の業務実績の記載部分は、わかりにくいので表現を検討するように。 企業の実績部分の審査は、案件毎に毎回事業者に申請書類の提出を求めず、一度事業者に提出させたものをデータベース化し、案件毎に審査が必要な項目のみその都度提出させるような方式をとればより負担軽減に繋がると思うが。</p>	<p>む部分が多数あるので事務負担は軽減されている。</p> <p>増えた部分をどのように改善していくかについて、現時点で最適解は持ち合わせていない。本件業務は、複数年契約なので次回発注時までに対策を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生していない。</li> <li>・記載について検討する。</li> <li>・連絡はきていない。</li> <li>・記載について検討する。</li> </ul>

意見・質問	説明・回答
<p>○新たに締結する競争性のない随意契約に関する内部統制は仕組（デザイン）と運用（オペレーション）の部分は分けて評価すべき。 今年度新たに締結する競争性のない随意契約がなかったのであれば、運用の部分は評価する対象がなかったということになる。 競争性のない随意契約を継続して締結する場合における内部統制の確立も同様に、仕組と運用の部分を分けて評価するのが適切である。</p> <p>○大括り化した工事は、平均応札者数、平均落札率ともに上昇していることは興味深い。平均落札率が上昇したことについて、大括り化した工事の平均落札率と大括り化する前の工事の平均落札率を比較してみてもどうか。</p> <p>○施工計画に係る提案を求めず、企業及び配置予定技術者の実績を重視した総合評価方式の平均応札者数、平均落札率の具体的な数字を聞きたい。</p> <p>○個人的な意見だが、この項目は具体的な数字を示した上で試行実施5件に対して9件実施したこと、事業者、発注者双方の事務手続の負担が軽減されたこと、競争性の向上やコスト削減にも寄与していることからA評価としてもいいのではないか。</p> <p>○競争性のない随意契約を継続して締結する場合の内部統制の確立の項目は、計画に定めた市場価格の把握やコスト低減要素を踏まえた積算をどのように行い、契約審査会においてどう検証したかといった根拠となることを業務実績部分に記載しないと自己評価できないのではないか。</p>	<p>・記載について検討する。</p> <p>・年度末の結果を踏まえ、再度検証したい。</p> <p>・平均応札者数は、8.2者から9.6者へ増加し、平均落札率は88.5%から86.8%へ減少している。</p> <p>・試行実施ということで件数については数値目標ではないと認識している。A評価とするかどうかは年度末の状況を踏まえ、再度検討したい。</p> <p>記載について検討する。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>同様のことが1者応札・応募が2回連続して発生した案件の項目についても言える。</p> <p>○研修の理解度テストの正答率は何%か。</p> <p>○理解度が低かった事項は次年度以降の研修内容の改善に活かしていくといったことを記載すべきではないか。</p> <p>○工事落札率検証会議において、落札結果に特異な状況は認められたのか。</p> <p>○特異な状況が何件あったか記載すべきではないか。</p> <p>○オープンカウンター方式の実施によるコスト削減の項目は、次年度も計画に計上するのであれば、継続実施により効果が薄れていくような施策だと思われるので目標設定をどうするか検討すべき。</p>	<p>・ 8割程度である。</p> <p>・ 記載する。</p> <p>・ 特異な状況として定めている基準に該当する案件はあったが、不正兆候は見受けられなかった。</p> <p>・ 記載について検討する。</p> <p>・ 検討する。</p>